

# 都市計画たより

---

令和4年度版



名古屋市 円頓寺商店街

## 目次

はじめに	1
令和4年度 都市計画検討グループの活動内容	1
令和4年度 都市計画検討グループ総会 報告	2
令和4年度 第32回 建設コンサルタンツ協会業務技術発表会 報告	3
令和4年度 都市計画検討グループ WG活動報告	4
・都市整備WG	4
・交通WG	6
・ランドスケープWG	8
■参考1：これまでの都市計画検討グループにおける活動内容（会員参加型）	10
■参考2：令和4年度 都市計画検討グループ会員及び各企画参加人数（会社数）	11
おわりに	11

【表紙写真】

撮影：都市整備 WG 委員

## はじめに

平素から、都市計画検討グループ活動に対してご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

今年度の都市計画検討グループでは、4月から会員の募集や、都市計画委員会の活動が始まり、8月の都市計画検討グループ総会（集合+WEB形式）、11月からの各ワーキング（以下WG）企画に対し、コロナ禍の中、また業務ご多忙の中、多くの会員の皆様にご参加いただきました。

会員の皆様のご協力・ご参加により、令和4年度の活動も無事終了しましたこと心より感謝しております。また、都市計画委員の皆様におかれましては、コロナ禍で活動方法が制限される中、創意工夫していただくことで各ワーキング企画を実現いただき、本当にありがとうございました。

今年度の講習会や見学会などの活動した内容を「都市計画たより」としてとりまとめましたので、ご高覧いただくとともに、来年度の活動の参考としていただき、ご意見等いただければ幸いです。

来年度も、皆様からの要望を踏まえて、「仕事の役に立つ魅力的な企画」を検討していきます。奮ってのご参加をお待ちしておりますので、引き続き、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

都市計画委員長 河村和紀

## 令和4年度 都市計画検討グループの活動内容

---

令和4年度は、下記の通り「会員参加型企画」及び「委員会活動」を実施しました。

### 1. 会員参加型企画

- 総会（8/1）：109名（21社）・・・P.2
- 都市整備 WG 講習・見学会（11/29）：43名（22社）・・・P.4
- 交通 WG 講習（11/17）：49名（28社）・・・P.6
- ロードスケープ WG 講習・見学会（11/11）：28名（12社）・・・P.8

### 2. 委員会活動

- 三重県建設技術研修会：講師派遣（7月）
- 愛知県震災復興都市計画模擬訓練：アドバイザー派遣（9月）
- 業務技術発表会運営（10月）
- 建設技術フェア2022in中部 学生交流ひろば対応（10月）
- 建設コンサルタントフェア2022 in 中部（10月）
- 発注者意見交換会（12月）
- 都市計画委員会：毎月開催（全9回、4月～12月）

## 令和4年度 都市計画検討グループ総会 報告

### I. 開催日程等

日 付：令和4年8月1日（月）

場 所：ウインクあいち 1303 号室（集合形式+WEB 配信）

参加者：109名 21社

### II. 総会の概要

- |                                 |           |
|---------------------------------|-----------|
| 1. 開会                           | 【市川副委員長】  |
| 2. 技術部会長挨拶                      | 【三矢技術部会長】 |
| 3. 令和4年度都市計画委員の紹介               | 【河村委員長】   |
| 4. 令和3年度活動報告と令和4年度活動計画（案）       | 【河村委員長】   |
| 5. 令和4年度WG活動方針（案）               | 【各委員】     |
| 6. 令和3年度決算報告と令和4年度予算（案）の説明      | 【岡部副委員長】  |
| 7. WEB 勉強会『コンパクトシティと交通・緑のまちづくり』 | 【各委員】     |
| 8. 閉会                           | 【河村委員長】   |

#### 令和4年度の活動計画

**テーマ**：都市計画を取り巻く動き、新しい情報の提供

**活動方法**：WG活動を主体にニーズに対応した見学会、講習会等の開催と交流の深化

**合同WG**：複数のWGや他の技術検討グループとの合同開催

都市計画検討グループの目的は「技術研鑽」と「技術者相互の交流」です。技術の研鑽を目標にして各グループ部員が集まり、お互いの交流の輪が広がる場づくり、学識経験者、官公庁、他の団体とも積極的に交流の場づくりができるように進めていきます。

令和4年度は、コロナ禍の影響を受け、WEB講習会などのニューノーマルに対応した活動形式も積極的に取り入れた活動計画を立案し、社会貢献活動にもコロナ禍の状況を勘案して適切に対応していきます。

#### 令和4年度の各WG別会員数

都市整備WG：97名（111名）14名減

交通WG：69名（64名）5名増

ランドスケープWG：52名（59名）7名減

合計：218名（234名）26名減 ※（）は令和3年度の会員数

## 令和4年度 第32回 建設コンサルタツツ協会業務技術発表会 報告

10月21日(金)に「ウインクあいち」にて業務技術発表会を開催しました。今年度も、コロナ禍の影響を勘案し、聴講者なしで発表会を行ったため、建設コンサルタツツ協会中部支部のホームページに動画をアップし、会員に配信しました(CPDの発行も行いました)。

業務技術部門【河川・都市計画部門】では10編の発表があり、5編発表した都市計画分野から、最優秀賞1編と優秀賞1編が受賞されました。

### ◆ 最優秀賞

- ・ 鉄道駅周辺における高齢者のにぎわい・交流空間の創出

株式会社オオバ

竹内 希生 氏



【発表の様子】

### ◆ 優秀賞

- ・ 大規模災害時における水産物の生産・流通の早期復旧及び継続を目的とした水産業業務継続計画(BCP)の策定

中央コンサルタツツ株式会社

角見 篤紀 氏



【発表の様子】

### ◆ 発表論文

- ・ R2スマートモビリティチャレンジ「茅野市版Ma a S」実証実験の支援

大日本コンサルタツツ株式会社 北川剛弘 氏

- ・ 地域主体による交通手段の導入スキームの検討

株式会社建設技術研究所 加納壮貴 氏

- ・ 災害時における移動電源設備の活用に関する検討

株式会社建設技術研究所 赤澤哲也 氏

### ◆ 掲載論文

- ・ 土地区画整理法第80条に基づく工事施工について

日本工営都市空間株式会社 金岡才夫 氏

来年度は、10月31日(火)に「ウインクあいち」にて開催いたします。4月から応募依頼が始まりますので、奮ってのご参加お待ちしております！

## 都市整備WG

### I. 開催日程等

日 時：令和4年11月29日（火）15：00～17：15  
 講演方式：東横 INN 名古屋丸の内1F会議室（Web形式の併用）  
 テーマ：ICT技術を活用したデータ収集とまちづくりへの活用  
 講 師：名古屋大学大学院 情報学研究科 浦田真由 准教授  
 参加者：43名、22社（対面形式13名、Web形式30名）



▲浦田真由 准教授

### II. 活動概要

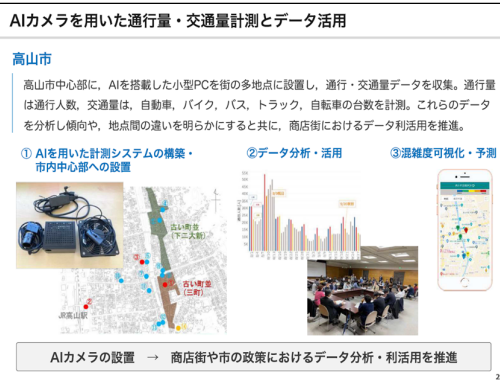
近年、都市計画分野において、ICT技術を活用した人の移動・行動データなど各種データの収集と、それらを用いた都市活動の可視化や政策立案への応用が活発に行われています。そこで今回の都市整備WGは、総合計画など各種行政計画の委員を歴任されている名古屋大学の浦田真由准教授をお招きし、高山市・飛騨市や円頓寺商店街を事例に、観光や地域コミュニティにおけるICT技術の利活用に関する講演会を開催しました。講演後にはデータドリブンな商店街構築を目指す円頓寺商店街を視察し、「AIラボ」の見学会も実施しました。

講演会では、ICT利活用を推進する際のポイントや産官学連携の手法などを説明いただいた後、事例紹介をしていただきました。まず、地域コミュニティにおけるICT利活用として、名古屋市北区及び㈱デンソーとの三者協定に基づいた、スマートスピーカーの活用やeスポーツ体験会の実施などによる高齢者の健康増進等に向けた取組を紹介いただきました。次に、観光まちづくりにおけるICT利活用として、飛騨市・高山市及びNECソリューションイノベータ㈱との三者協定に基づいた、車両ナンバー認識システムの導入やSNSを活用したテキスト分析による効率的な観光PRに向けた取組を紹介いただきました。高山市の事例では、研究を行った大学院生の方から補足説明をしていただきました。

いずれの事例においても、ICT技術の新規性を追い求めるのではなく、あくまで地域やコミュニティが抱える課題を起点として必要なICT技術を選定・活用するという姿勢が印象的でした。今回、具体的な事例をお聞きすることで、データ収集に関する注意点や課題に留まらず、分析したデータをまちづくりに活かすための視点を得ることができ、大変有意義な時間となりました。



▲講演会の様子

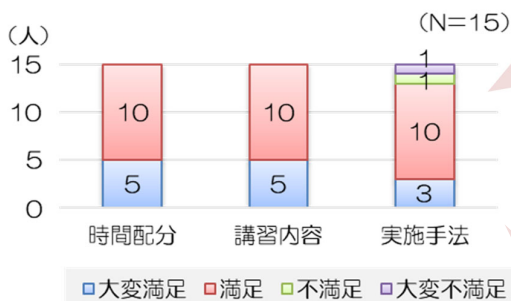


▲発表資料の抜粋（高山市の事例）

### 質疑応答の内容（一部抜粋）

- Q AI カメラで得られる歩行者データの属性はどのようなものか？  
A 性別、年代、物体検知も行っており、傘の所持やマスクの着用なども把握できる。
- Q 機器設置やデータ分析に伴うコストを回収することが重要だが、どうであったか？  
A 得られたデータの分析結果を踏まえ閉店時間を調整した店で売上が増加した。コストを誰がどう負担するか課題もある。自治体の動きや民間企業の協力が重要となる。
- Q AI カメラ設置やデータ収集に際して、地域住民からの反応はどうであったか？  
A 不安に思われる方もいたが、映像は即座に消去することや経産省・総務省が作成したガイドブックに則り実施することを丁寧に説明した結果、特に問題は起こらなかった。

### 本講習会に対する満足度（Web 参加者へのアンケート結果）



時間配分と講演内容については、「ICT の活用事例を自治体単位で知れた」「産官学連携の仕組みを学べた」等のご感想をいただき、回答者全員に満足いただきました。一方、実施手法については「音声途切れる」「ハウリングしている」とのご指摘をいただいたため、改善して参ります。

今後取り上げて欲しいテーマを募集したところ、「空き家問題」「広域避難」「地域の担い手発掘」「無電柱化対策」等の回答をいただきました。次年度の活動の参考とさせていただきます！

講演後の見学会では、円頓寺商店街に 22 年 5 月に設置された「AI ラボ」を伺い、アーケードの出入口などに設置された顔認識カメラの映像や分析手法について、NEC ソリューションイノベータ(株)のご担当者から説明をいただきました。カメラの映像はかなり鮮明であり、また直上からの撮影ではなく角度をつけて設置されているため、通行者の歩行軌道や振る舞いを十分に把握することができました。一方で、プライバシー保護の観点から映像は蓄積せずに消去されるとのことでした。その後、実際に設置されているカメラを見て回りながら、商店街を視察しました。



▲AI ラボの見学



▲円頓寺商店街の視察

今回の講演会及び見学会を通じて、まちづくりにおける ICT 技術の活用可能性を深く理解することができたと同時に、データの収集や分析手法を実体験として得ることができました。また、データ収集や分析、利活用において、ICT の専門家に頼るのではなく、**私たち建設コンサルタントが積極的に提言・行動していくことが必要であり、協働関係を築くことが大切だ**と感じました。

最後に、雨のなか来場いただいた皆様に感謝申し上げます。Web 参加いただいた皆様におかれましては、映像や音声の一部不具合があったかと思ひます。運営に不慣れな点が多くご迷惑をおかけしましたが、予定通り実施することができましたこと、お礼申し上げます。

## 交通WG

### I. 開催日程等

日 時：令和4年11月17日（木）15:00～17:00

場 所：東横 INN 名古屋丸の内1F 会議室

テ ー マ：「人、そして子供に優しいまちづくり～多様なデータを活用して～」をテーマにした講習会

講 師：豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系  
松尾 幸二郎 准教授

内 容：講習会

参 加 者：集合形式 17 名（11 社）、WEB 形式 32 名  
（17 社）※アンケート回答者数

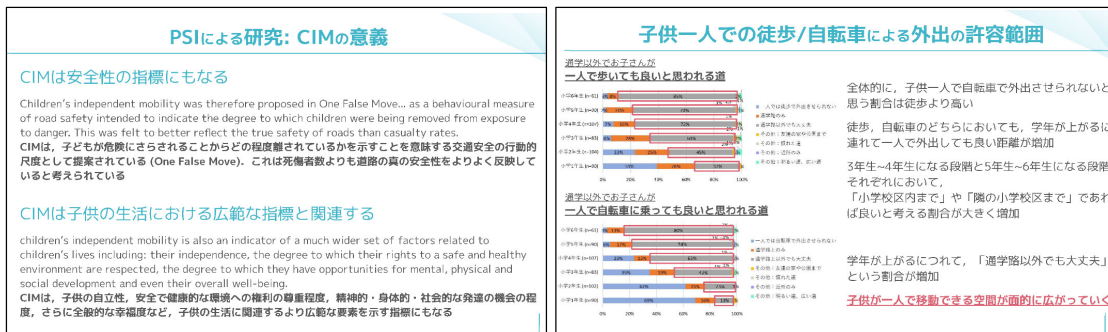


▲松尾 幸二郎 准教授

### II. 活動概要

ビッグデータを活用したエビデンス・ベースの政策立案や、地域課題・交通課題の解決、従来の調査では得られなかった知見の取得等を目指した取り組みへの期待が高まっています。一方、日々の実務においては、ビッグデータの使い方、選び方、組合せ方などに、活用の糸口が見いだせず悩むこともあるかと思います。そこで今回は、データを活用した交通まちづくりに積極的に取り組まれている「豊橋技術科学大学 都市・交通システム研究室の松尾幸二郎准教授」をお招きし、交通安全性の向上について、プローブデータを含む多様なデータ、技術、視点による交通マネジメントの事例を紹介いただきました。

講習会は、「人、そして子供に優しいまちづくり～多様なデータを活用して～」をテーマとして、前半は子供の移動自由性（Children's Independent Mobility: CIM）や安全性に関する研究活動について紹介いただきました。CIM は子供が大人の付き添いなしに自由に外出・移動ができる程度を表す指標のことですが、子供の独立した移動は、子供の幸福、健康、個性の発達において本質的な価値を持つものであること、さらには、子供がどのくらい危険にさらされているかを読みとくことが安全性の評価指標として有益であることを示唆いただきました。また、当指標に基づく、多面的なアンケート結果を分析すると、子供環境から危険を取り除くのではなく、道路環境から危険を取り除くことに重点をおいた施策の必要性が浮かび上がることを紹介いただきました。



#### ▲講習会資料の抜粋

後半はプローブデータを活用した交通安全マネジメントについて、先進プローブデータを使った「知の拠点あいち重点研究プロジェクト」の取り組みを紹介いただきました。データを収集するためモービルアイという端末を、民間タクシーに40台程度、豊橋市及び春日

井市の公用車に 80 台程度設置し、速度情報や視覚情報を大規模に収集して、交通安全向上に資する基礎データを収集していること、そして、このデータから統計モデルを用いて潜在的危険箇所を抽出し、道路施策への利活用を図っていることを紹介いただきました。また、今後の交通安全管理におけるプローブデータの活用用途として、施策に客観性をもたせる「参照目的活用」、潜在的な危険箇所を発見する「探索目的活用」、迅速な施策の実施に役立つ「説明目的活用」が見いだせることを示唆いただきました。

最後に、まちづくりにおけるデータ活用にビッグデータを用いることで「情報の解像度」が上がり、まちづくりに関わる指標がシンプルかつ明確になることが有益である、とのまとめをいただきました。

### 交通安全マネジメントへの活用

**生活道路抜け道交通の実態把握**

従来の局所的な観測調査方法ではトリップの一部を切り取るため、**通過交通が否かの判定が困難**

一方、プローブデータは**トリップ全体の情報**を持っている  
→生活道路抜け道交通の実態把握が可能

### 先進プローブデータ収集デバイスの構築

**Mobileye機器 + 通信機器 (a-probe)**

後付け型の衝突防止警報補助装置 + 通信機器により、先進プローブデータを収集するための統合デバイスを構築

通常のプローブ情報（時々刻々の車両位置、速度など）に加え、各種衝突警報の発生時刻・発生位置、前方車との車間時間、速度認識検知情報などの情報を収集し、クラウドサーバに送信

#### ▲講習会資料の抜粋

#### 【講習会の質疑応答】

- ① 交通安全マネジメントの観点から交通事故を本当に減らそうと思うと、人の行動を変える必要があるが、先生はどのように考えるか？
  - 自治体の取り組みからは、「まちづくりで安全をはかる」という視点が弱い傾向がある。
  - 直接的なアプローチとして、車両の速度を落とすことはよいが限界があるため、「まちづくりのアプローチ」から交通事故を減らす取り組みが重要である。
- ② データの分析から、安全なまちづくりをどのように展開していこうと考えるか？
  - データ分析により直接的に安全なまちづくり方法が導き出されるわけではなく、データ分析によって、現象把握の解像度が上がることが重要である。
  - データの活用方法としては、まずは全体のまちづくりのコンセプトがあって、そのデータを分析することが必要であり、そこに活用意義があると考えます。
- ③ データの使い方として「参照的活用」とあるが、補足して説明してほしい。
  - 具体的には、地元から危険箇所が上げられてきた場合、その都度、詳細を把握するといった使い方を、「参照的活用」と考える。

#### 【おわりに】

講習会全体として、「交通事故」というシビアな内容について、柔らかな語り口で冷静な視点から、非常にわかりやすくご説明いただき、受講者アンケートからも高評価をいただきました。また、ご自身も小学生の子供を持つ親の身であることから、「子供に優しいまちづくり」の視点に説得力を感じました。今回、WEB形式及び集合形式のハイブリッド講習会としましたが、WEB形式の参加者から「質問が聞こえづらい、資料閲覧等ができない」等のご意見をいただきましたので改善し、次年度の活動に活かしていきたいと思っております。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



## ランドスケープWG

### I. 開催日程等

日 時：令和 4 年 11 月 11 日（金）8:00～17:30

場 所：見学：VISON（三重県多気町）

講習：VISON 管理棟

テーマ：VISON の事業モデル・土木インフラについて

講 師：株式会社アクアイグニス ヴィソン多気株式会社 代表取締役 立花哲也氏  
株式会社オリエンタルコンサルタンツ 洞庭敏昭氏（設計管理技術者）

参加者：28 名（12 社）

### II. 活動概要

地方創生、地域活性化が日本経済の再構築の課題となるなかで、三重県多気町に誕生した「VISON」が地方創生プロジェクトとして大きな注目を集めています。地方創生を生み出し、日本の地域を元気にすることを旨とする先進モデルである「VISON」の事業モデルを通じて、地方公共団体との連携、地域企業との事業スキームのあり方、集客を可能とする施設の魅力を創造する手法について学ぶ「VISON」の見学・講習会を開催しました。

講習会では、事業全体を主導された株式会社アクアイグニス ヴィソン多気株式会社 代表取締役立花哲也様から、フィールドに多気町を選定した経緯や、美食の町をつくり上げたサンセバスチャンに学びながら、地域の食文化を取り上げ、広めていく思想、VISON をモビリティハブとした周辺地域連携など、事業推進のポイントに関する貴重なお話を頂きました。

また、事業エリアの基盤整備や民間初のスマートインターの設計に携わった株式会社オリエンタルコンサルタンツ 洞庭敏昭様からは、民間事業を設計者の立場でマネジメントするという視点で実務的な工夫などの話をお聞きました。



【講習会の様子（VISON 管理棟）】



【見学会の様子】

見学会では、ヴィソン多気株式会社 戦略企画本部長 目野雅司様に VISON 内施設をご案内頂き、事業者を選定する際の視点や施設デザインへのこだわりを説明して頂きました。

民間事業であるため、工期が事業収益に直結するという緊張感の中、運営・設計ともに妥協せず取り組むことで、時には熱い議論を交わしながら、非常にやりがいのある仕事となったと話されながらも、多くの方が訪れ、楽しんでくれることや、美しい風景がつけられていることに誇りをもたれている姿が印象的でした。

午後からは、VISON 内を各自で散策しました。現地を一通り確認したうえでの自由見学であったため、広い敷地内でも各々ポイントを絞って見学ができました。今回は、あらかじめ配付した「課題回答シート」を散策中に作成するというミッションがあったため、課題意識をもって現地を回り、施設内の思い思いの場所で、参加者が課題に取り組みました。



【VISON の風景】



【Marche VISON】

帰りのバスでは、課題のテーマ「VISON 内に新たに施設をつくるならどんなものかについて、参加者全員に発表して頂きました。あらゆる人が利用できる地域交流の場の創設や空き空間を利用したフリースペースの設置、子供たちが遊べ、景色を楽しみながらくつろげる芝生広場など様々なアイデアが出され、非常に興味深く楽しい時間となりました。



【集合写真（Marche VISON 前）】



【帰路車内での発表の様子】

令和4年度「ランドスケープワーキング」見学講習会 課題回答シート

<p>整備テーマ： <u>三重県コミュニティセンター</u></p>	<p>氏名： ●●●●</p>
<p>※講習会での内容や、現地見学の結果を踏まえて、新たにありとより魅力が高まると思われる機能を考えて、整備テーマと整備イメージをご記入ください。</p>	
<p><b>■施設の考え方</b> ※どのようなことが楽しめる場所か、施設イメージをご記入ください。</p>	<p><b>■整備イメージ</b> ※整備テーマや施設の考え方を具現化した、平面図、ラフスケッチ等、イメージが伝わるものを自由にお書きください。</p>
<p><b>■マップ</b> ※想定箇所に印をつけてください。</p>	

【課題回答シート（例）】

## ■参考 1：これまでの都市計画検討グループにおける活動内容（会員参加型）

### 【委員会全体の講習会・見学会】

- H24：見学会 近江八幡市一水郷巡り、八幡重要伝統的建造物群保存地区
- H25：講習会「エリアマネジメント～街育ての担い手はだれ？」
- H28：講習会「人口減少が進む都市において中心市街地や郊外住宅団地の再生」  
「持続性を確保するにはどのようなまちづくりを進めるべきか」

### 【都市整備WG】

- H23：全体講習会「事前復興計画のススメ…この国の明日を紡ぐ」
- H23：講習会「名古屋港と産業防災」
- H24：見学会「中心市街地の昨日・今日・明日」（愛知県東海市、半田市）
- H25：講習会「リニア中央新幹線と名古屋」
- H25：見学会（交通 WG と合同）「公共交通を活用した地域活性化  
及び歴史を活かしたまちづくり視察」（岐阜県恵那市）
- H26：講習会&見学会「伊勢河崎のまちづくり」「三重県防災拠点」（三重県伊勢市）
- H27：講習会「歴史的視点から見た集約型都市構造とは？」（PART1、2）
- H28：講習会&見学会「縮小期のまちづくり（豊川稲荷表参道・御油のマツ並木）」  
（愛知県豊川市豊川稲荷）
- H29：講習会&見学会「錦二丁目まちづくり協議会」（愛知県名古屋市中区）
- H30：講習会「公共空間の有効活用と都市のマネジメント・維持管理のあり方」
- R 1：講習会「スポンジ化した地域の面的再生等へ向けた取組事例」（山形県鶴岡市）
- R 2：講習会「スマートシティとこれからの都市計画：with/post コロナの都市像」
- R 3：講習会「活力のある都市をつくる」（岐阜県岐阜市）
- R 4：講習会「ICT技術を活用したデータ収集とまちづくりへの活用」（名古屋市）

### 【交通WG】

- H23：全体見学会「りんご並木が美しい丘の上のまち飯田」のまちづくりを体感  
（長野県飯田市）
- H24：講習会「自転車利用環境整備を考える」
- H25：見学会（都市整備 WG と合同）「公共交通を活用した地域活性化  
及び歴史を活かしたまちづくり視察」（岐阜県恵那市）
- H26：見学会「最新の安全対策技術情報及び施工事例について」（愛知県阿久比町）
- H27：講習会&見学会「四日市市における交通環境の取り組みについて」  
「東海道日永郷土資料館&四日市あすなろう鉄道」（三重県四日市市）
- H28：講習会「ビックデータの活用・可能性と展望」
- H29：講習会「自動運転が創る未来の都市交通のあり方」
- H30：講習会「道の駅をいかしたまちづくり・地域活性化と今後の展望」
- R 1：講習会「住みやすい都市空間デザインのための空間情報分析」（愛知県瀬戸市）
- R 2：講習会「技術者経歴 50 年の歩みと今後への提言」
- R 3：講習会&見学会「岡崎市 QURUWA 地区」（愛知県岡崎市）
- R 4：講習会「人、そして子供に優しいまちづくり・多様なデータを活用して」（名古屋市）

### 【ランドスケープWG】

- H23：見学会「土木学会デザイン賞受賞公園の設計コンセプトを学ぶ」（岐阜県各務原市）
- H24：全体講習会&見学会 滋賀県近江八幡市での講習会・見学会
- H24：見学会 H22 講習会講師による愛知県半田市の現地見学会
- H25：見学会「あいちサトラボで里山づくり活動を学ぼう」（愛・地球博記念公園）
- H26：講習会&見学会「花フェスタ記念公園における指定管理者制度の現状と課題」  
（岐阜県可児市）
- H27：講習会&見学会「公園における集客力を高める工夫を学ぶ」（愛知県刈谷市）  
講習会「全国都市緑化あいちフェアはどこまで造れたか」
- H28：講習会&見学会「官民連携による公園の集客力を  
高めた工夫を学ぶ（梅小路公園）」（京都府京都市）
- H29：講習会&見学会「最新事例からランドスケープデザインを学ぶ」  
（草津川跡地公園・ラコリーナ近江八幡）」（滋賀県草津市、近江八幡市）
- H30：講習会&見学会「具体的事例をとおしてランドスケープデザインを学ぶ」  
（太田川駅前どんでん広場）」（愛知県東海市）
- R 1：講習会&見学会「具体的事例をとおしてランドスケープデザインを学ぶ」  
（天理駅前広場コフン、道の駅レスティ唐古・鍵と史跡公園）」（奈良県天理市）
- R 2：講習会&見学会「コロナ禍で、我々が取り組むべきパブリックスペースの  
あり方について学ぶ（Hisaya-odori Park）」（愛知県名古屋市）
- R 3：講習会&見学会「小幡緑地 オバッタベッタ・ヤネル」（愛知県名古屋市）
- R 4：講習会&見学会「VISON 事業モデル・土木インフラについて」（三重県多気町）

## ■参考 2：令和4年度 都市計画検討グループ会員及び各企画参加人数(会社数)

表：令和4年度参加人数一覧表

単位（会員：人、会社：社）

項目	令和3年度		令和4年度		増減 (R4-R3)	
	会員	会社	会員	会社	会員	会社
都市計画検討グループ会員	234	30	218	30	▲16	0
合同 WG（未実施）	-	-	-	-	-	-
都市計画検討グループ総会（講習会）	98	25	109	21	11	▲4
都市整備 WG（講習・見学会）	52	16	43	22	▲9	6
交通 WG（講習会）	15	11	49	28	34	17
ランドスケープ WG（講習・見学会）	39	13	28	12	▲11	▲1
参加数（のべ）	204	65	229	83	25	18

※各 WG 活動の集合形式は、コロナ禍での現地見学会であったため人数制限をして開催しました。

できる限り多くの方に参加して頂くため、WEB 形式を併用して講習会を開催しました。

### おわりに

会員の皆様のご協力のもと、令和4年度の都市計画検討グループの活動も無事に終わることができ感謝しております。今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、講習会等の活動の可否や開催方法など多くの制約がありました。

しかし、昨年度のコロナ禍での活動で得た知見をもとに、さらに委員会で議論を重ね、円滑に活動を行うことができました。具体的には WEB 形式と人数を絞っての集合形式による講習会やチャットを利用した質疑応答、WEB アンケートを活用した CPD の発行、密を避け、感染対策の上実施した見学会などに取り組みました。

WEB 形式の講習会は、対面に比べ、どこからでも気軽に参加しやすいという意見もあることから、コロナの状況に関わらず、今後も WEB 形式の講習会等の改善に努めながら実施していきたいと考えています。

来年度も皆様の要望を踏まえ、「技術研鑽」、「技術者相互の交流」を目的に活動していきます。

令和5年度も、引き続きよろしく申し上げます！

都市計画たより 令和4年度版

発行日：2023年2月15日

発行者：都市計画委員会